

みどりの風 NO.37

発行・編集責任 (緑風会会長 大矢正明)

能登半島地震 現地の透析状況は？

特に被害の大きかった能登地方では今もなお透析施設は復旧しておらず、そこに通う透析患者は、石川県内・外の透析施設で、短時間透析を受けながらも透析は確保されているそうです。これまでの主だった情報をお知らせします。

◆1月1日

羽咋市、七尾市、輪島市、珠州市の透析施設が停電のため、補助電源にて透析予定停電が復旧しない場合、3日が限度。金沢市の一部も液状化や道路の隆起や沈降被害あり。

◆1月2日

能登の6病院は停電と断水で透析できず、6病院で透析患者が350人、その内71人が福井県の藤田病院、福井医科大学付属病院へヘリコプターで搬送され、残り一部の方は富山県の透析施設へ臨時透析を依頼、200人は金沢市のいくつかの透析施設へ振り分けされた。

◆1月4日

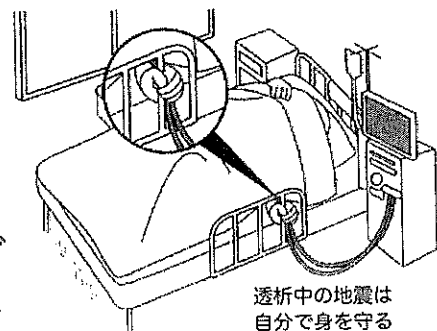
石川県透析医療機関の総数 43 医療機関のうち透析できない医療機関は 6 施設。そこに通院する透析患者は 264 人(最大 360 人) 透析を受けることができない患者への対応・・・1月4日に透析を予定していた患者は石川県内の医療機関での受入れ調整完了。搬送手段についてはDMATが調整。

DMATとは、「災害派遣医療チーム」のこと

このほか、富山県や新潟県においても透析時間が一時短縮され、今もなお続く余震の揺れの影響で酒に酔ったようで調子が良くないといった声なども寄せられている。全腎協では引き続き被災状況について情報を集めるとともに、今後の具体的対応については、理事会等で協議していく予定。(以上全腎協災害対策本部よりの報告)

特集記事 その1 = 透析中に地震が起こったら? =

透析中に大きな自身が起こったら、揺れている間はスタッフがベッドに近づくことは、難しくなります。その間は、自分で自分の身を守る必要があります。具体的には、落物から身を守るために布団を頭からかぶるようにします。可能であれば、回路が引っ張られることによる抜針を防ぐために、回路を手で持ち、ベッドの柵を持って揺れが収まるのを待ちましょう。



(次号では、「大きな災害が透析施設以外にいる時に起こったら?」)